

平成31年度鳥取県立博物館の予算について

資料 2

平成31年3月
(単位:千円)

事業番号	事業名	事業概要	H31 予算額 (千円)	前年度 予算額 (千円)	前年度比 (千円)	備考
1	企画展開催費	鳥取県の自然・歴史・美術分野の資料、作品、研究成果等や世界的・全国的に貴重な作品等について、企画展として広く県民に紹介する。 (1)自然:手塚治虫のメッセージ ～人と動物、共に生きるために～ (2)人文:殿様の愛した禅 黄檗文化とその名宝 (3)美術:ニューヨーク・アートシーン (4)美術:生誕120年 塩谷定好とその時代 (5)美術:静寂なる砂の景 生誕100年 國領經郎展	85,472	89,575	△ 4,103	・マスコミとの実行委員会方式での開催することを継続する。 ・自然の展示は、手塚治虫プロダクションとの連携を予定している。 ・ニューヨーク・アートシーンは、徳島県、和歌山県、埼玉県と実行委員会を組織し、(一財)地域創造の助成金を活用して開催。
1.1	企画展開催費 (H32分:債務負担)	平成32年度に計画している企画展の準備を行う経費。 (1)自然:森の宝石 変形菌ワンダーランド (2)人文:60' 東京オリンピックとその時代 (3)美術:暮らしに生きるフィンランド デザイン展 (4)美術:ミュージアムとの創造的対話03 (5)美術:岡本太郎とカルト・セリグマン展	88,000	87,400	600	・平成34年度(2022年度)の開館50周年に向けて、館内にPTを置いて記念事業の内容を検討している。
2	博物館運営費	施設の維持管理、博物館を運営するための経費。 博物館が収蔵している約25万点におよぶ資料を害虫やカビ類などから守るための被害調査や防除対策を行う。	99,096	96,926	2,170	・収蔵資料管理事業から移管 ・展示ケース1台購入(更新)
3	博物館交流事業	中国、韓国、ロシアの博物館(河北省博物院、国立春川博物館、アルセーニエフ名称沿海地方国立博物館)との交流や情報交換等を行う。	2,318	3,788	△ 1,470	・河北省博物院交流20周年記念展の当館開催→河北省開催による展示経費の減
4	自然事業費	自然部門(地学・生物・植物)の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。	10,242	14,160	△ 3,918	・非常勤職員(地学)の延長5年終了、延長を要求 ・オオサンショウウオ飼育水槽改修の終了
5	人文事業費	人文部門(考古・歴史・民俗)の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、藩政資料の整備、修復・情報発信を行う。あわせて、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。	22,052	23,769	△ 1,717	・(新)明治維新の一級資料整理・研究 ・(新)縄文土器整理事業(非常勤・半年分) ・寄贈古文書の整理・登録の終了
6	美術事業費	美術部門(絵画・彫刻・工芸・写真等)の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。	16,638	16,896	△ 258	・近代美術展示の回数増(2回→3回) ・収集評価委員会の開催回数減(2回→1回)

事業番号	事業名	事業概要	H31 予算額 (千円)	前年度 予算額 (千円)	前年度比 (千円)	備考
7	博物館普及事業費	県民の生涯学習や学校教育を支援するために、各種の講座や体験学習会、移動博物館などを実施するとともに、博物館の活動、研究成果、利用方法などについて広く情報を発信する。	13,004	12,332	672	・ミュージアムソフトの改修
8	美術館・博物館等ネットワーク強化推進事業	鳥取県ミュージアム・ネットワークが実施する、①県内の美術館・博物館等における具体的な協力連携の取組、②各館の歴史民俗資料の保存活用機能を向上させる取組を支援することにより、県内の博物館等の連携基盤を確立してネットワークの強化を図る。	1,202	1,557	△ 355	・アドバイザー派遣事業の派遣時間の減(1回7時間→4時間)
9	鳥取県立美術館整備推進事業	数年後の県立美術館開館に向けて、美術館活動の効果を先行して波及させるとともに、県民と連携した美術館づくりを行っていくための経費。	39,977	4,935	35,042	・PFI事業者選定事業 ・建設場所調査業務委託 ・県民がつくる美術館事業
	収蔵資料管理事業	博物館が収蔵している資料を害虫やカビ類などから守るための経費。	0	0	0	・博物館運営費に統合 (前年予算:5,509)
	鳥取藩絵師粉本類修復事業	鳥取藩絵師の小畑稻升、黒田稻皐、沖一巖の門人らを中心とする粉本類資料の修復を4か年計画で行い、今後の展示に活用する。	0	1,796	△ 1,796	・4年計画(H27～30)の終了
	第11次郷土視覚定点資料収集事業	郷土の変化を視覚的かつ的確に把握・理解するため、5年ごとに同一地点(定点)の写真撮影を行い、その写真を歴史資料として収集・保存する。	0	7,141	△ 7,141	・平成30年度限りの臨時事業
計			290,001	272,875	17,126	

平成31年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
4目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8042）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
企画展開催費	〔債務負担行為〕 88,000	〔債務負担行為〕 87,400	〔債務負担行為〕 600			<(使用料) 8,280 (諸収入)3,792 > 12,072	〔債務負担行為〕 88,000	
	85,472	89,575	△4,103				73,400	
トータルコスト	129,131千円（前年度 133,273千円） [正職員：5.5人、非常勤職員：8.3人]							
主な業務内容	企画展の開催							
工程表の政策目標 (指標)	博物館機能の充実							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

鳥取県の自然・歴史・美術分野の資料、作品、研究成果等や世界的・全国的に貴重な作品等について、企画展として広く県民に紹介する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

企画展名(仮称)	予算額	会期(予定)	内容
ニューヨーク・アートシーン展	14,752	平成31年 4月13日～ 5月19日	第二次世界大戦後のニューヨークは、パリに代わるモダンアートの首都として現代美術をリードし、そこには草間彌生（くさまやよい）や河原温（かわらおん）等の日本人作家も含まれていた。本展では、ニューヨークが生み出した現代美術の優品を紹介する。
人と動物～手塚治虫の伝言～	20,534	平成31年 7月13日～ 8月25日	マンガの神様と呼ばれる手塚治虫（てづかおさむ・1928～89年）の作品には、人と動物の関係を描いた傑作が多数ある。本展では、人との関わりの中で消えていった動物たちの標本とその歴史を、手塚治虫のマンガとともに紹介し、これからの人と動物のあり方を考える。
黄檗と鳥取藩	19,679	平成31年 10月5日～ 11月4日	鳥取藩は、歴代藩主が黄檗宗（おうばくしゅう）に帰依し、その菩提寺である興禅寺（こうぜんじ）は「黄檗三大叢林（そうりん）」とされる高い寺格を誇るなど黄檗のメッカともいべき地であった。鳥取の文化に大きな影響を与えた黄檗の歴史を紹介する。
生誕120年 塩谷定好展	17,086	平成31年 11月16日～ 12月15日	塩谷定好（しおたにていこう・1899年～1988年）は、大正末期から昭和初期にかけて隆盛した「芸術写真」の第一人者であり、鳥取県の赤碕に身を置きながら終生にわたって作品をつくり続けた。2019年が塩谷定好の生誕120周年となることを記念して回顧展を開催する。
静寂なる砂の景 生誕100年 國領経郎展	13,421	平成32年 1月25日～ 2月25日	國領経郎（こくりょうつねろう・1919年～99年）は、戦後日本を代表する洋画家のひとりであり、鳥取砂丘など日本各地の砂丘地を取材し、砂のある茫漠とした風景とさまざまな人物、そして鳥たちを登場させる独特の作品世界を構築した。國領の生誕100年を記念して回顧展を開催する。
合計	85,472		

3 債務負担行為 平成32年度 88,000千円

企画展名(仮称)	会期(予定)
60's東京オリンピックとその時代	平成32年6月6日～7月5日
森の宝石 変形菌ワンダーランド	平成32年7月18日～8月30日
暮らしに生きるフィンランドデザイン展	平成32年10月10日～11月15日
ミュージアムとの創造的対話03	平成32年11月28日～12月27日
岡本太郎とクルト・セリグマン展	平成33年2月11日～3月21日

4 これまでの取組状況、改善点

- 平成30年度は3つの企画展を報道機関と実行委員会を組んで開催したことにより、コマーシャルや情報番組での生中継など、テレビ媒体を通じて幅広い層に向けた広報が実施できた。
- 今後の入館者増につなげるため、以下の点について力をいれていく。
 - ① 県外博物館、美術館と連携した巡回展、体験行事を取り入れた企画展等、魅力的な企画展開催に努める。
 - ② マスコミとの連携が可能な企画展については、実行委員会形式により、広報面の強化等を図る。
 - ③ 広報範囲の拡充及び早い時期からの周知開始などにより広報活動を強化する。

平成31年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
4目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8042）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
博物館運営費	〔債務負担行為〕 2,878		〔債務負担行為〕 2,878			<(使用料)> 1,374 (財産収入)141 (諸収入)1,285 >	〔債務負担行為〕 2,878	
	99,096	96,926	2,170			2,800	96,296	
トータルコスト	135,611千円（前年度 133,474千円）〔正職員：4.6人、非常勤職員：8.4人〕							
主な業務内容	会計事務、物品管理、施設管理、関係機関との調整、防虫・防菌対策等							
工程表の政策目標 (指標)	博物館機能の充実							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

利用者に快適な鑑賞環境を提供するために施設の維持管理を行い、来館者サービスの一層の向上につながるよう来館者等からの意見を聞きながら博物館を運営するとともに、博物館が収蔵している約25万点におよぶ資料を害虫やカビ類などから守るための被害調査や防除対策を行う。

2 主な事業内容

(単位：千円)

区分	予算額	事業内容
管理運営費	85,781	・非常勤職員（展示看視員・受付職員等）等の人件費 ・各種設備等管理・保守等業務委託費 ・博物館運営に係る光熱水費及び施設修繕費 ・鳥取県博物館振興会（ミュージアムショップ）への補助金
博物館協議会運営費	1,007	委員報酬等
広報等その他事業費	7,254	・各種展示等広報及び企画展図録作成経費 ・図書資料購入費
収蔵資料管理費	5,054	・非常勤職員（資料管理専門員）の人件費 ・害虫菌類の監視調査及び害虫侵入防止等経費 ・害虫、カビ発生時の殺虫、殺菌等経費
合計	99,096	

3 これまでの取組状況、改善点

- ・博物館の円滑な運営のため、来館者への応接、施設・設備の維持管理等を行っており、来館者の要望等を聞きながらサービス向上に向けて取り組んでいる。
- ・来館者へのアンケートでは、博物館全体に対する満足度はかなり高く、好評を得ている。
- ・今後の広報活動について、範囲を拡充するとともに、より早い時期から実施するよう改善する。
- ・日常的な温湿度管理、害虫等の監視や侵入防止に努めるとともに、温湿度等のモニタリング結果を踏まえた毎月の対策会議の開催や定期的な館内一斉清掃などにより、薬剤のみに頼らずに博物館資料の保全環境の維持・向上を図っている。
- ・引き続き現在の取組の維持・充実に努めるとともに、さらに効果の高い取組等を積極的に導入して、収蔵資料を的確に保全・管理していく。

平成31年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
4目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8042）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
博物館交流事業	2,318	3,788	△1,470				2,318	
トータルコスト	4,699千円（前年度 6,172千円）〔正職員：0.3人〕							
主な業務内容	連絡調整等							
工程表の政策目標（指標）	博物館機能の充実							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

中国、韓国、ロシアの博物館（河北省博物院、国立春川博物館、アルセーニエフ名称沿海地方国立博物館）との交流や情報交換等を行う。
平成31年度は中国河北省博物院との交流20周年事業として、河北省博物院で交流記念展を開催する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	予算額	事業内容
中国河北省博物院	256	河北省博物院の職員を受け入れ、各館の活動内容や調査研究、特に歴史・民俗分野について意見交換等を行う。 〔平成10年6月 友好交流館として協定締結〕
韓国江原道国立春川博物館	524	国立春川博物館を訪問し、今後の両館相互の博物館交流、特に美術分野について意見交換等を行う。 〔平成22年12月 友好交流及び協力に関する協定締結〕 〔平成23年12月 職員相互派遣に関する合意書締結〕
ロシアアルセーニエフ名称沿海地方国立博物館	238	アルセーニエフ名称沿海地方国立博物館の職員を受け入れ、今後の両館相互の博物館交流、特に普及啓発活動について意見交換等を行う。 〔平成22年9月 友好交流及び協力に関する協定締結〕
（臨）鳥取県立博物館・中国河北省博物院交流20周年記念展	1,300	交流20周年を記念し、当館所蔵の民工芸品を河北省博物院で展示する。（平成30年度は河北省博物院所蔵の民工芸品（武強年画、切絵細工、紙芝居）を当館で展示した。）
合計	2,318	

3 これまでの取組状況、改善点

- 中国河北省博物院とは、20年にわたって相互交流を行い、良好な関係を築いてきており、鳥取県と河北省の友好交流の一端を担っている。
なお平成30年度は、鳥取県立博物館・中国河北省博物院交流20周年記念展として、河北省博物院所蔵の民工芸品（武強年画、切絵細工、紙芝居）を当館で展示した。
- 韓国江原道国立春川博物館とは、平成22年度に「友好交流及び協力に関する協定」を締結し、交流を再開して以来、職員の相互派遣を続けており、今後一層の交流促進が期待されている。
- ロシアアルセーニエフ名称沿海地方国立博物館とは、平成22年度に「友好交流及び協力に関する協定」を締結し、以来、受入・派遣を重ねて良好な関係を築いており、平成29年度にはアルセーニエフ名称沿海地方国立博物館による講演会を鳥取西高等学校で開催し、平成30年度には当館職員とアルセーニエフ名称沿海地方国立博物館で子どもたちへのワークショップの手法等について情報交換するなど、教育普及分野での交流が深まりつつある。

平成31年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
4目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8042）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
自然事業費	10,242	14,160	△3,918			＜雑入＞ 15	10,227	
トータルコスト	33,262千円（前年度 37,201千円）【正職員：2.9人、非常勤職員：3.0人】							
主な業務内容	自然に関する資料の収集、展示、保存、調査研究							
工程表の政策目標 (指標)	博物館機能の充実							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

自然部門（地学・動物・植物）の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。

2 主な事業内容

(単位：千円)

区分	予算額	事業内容
資料収集研究費	9,688	・自然資料（標本・剥製など）の収集、製作、修復等 ・自然事業および展覧会開催に関する調査研究
常設展示費	554	・常設展示室（地学・生物）の運営、維持管理、展示更新
合計	10,242	

3 これまでの取組状況、改善点

- ・新しく収集した資料及び調査研究の成果を常設展示の展示替えに反映させるとともに、移動博物館等にも利用し、広く県民に紹介した。
- ・貴重な寄贈資料の整理及び調査を順調に進めており、引き続き、収蔵資料の整理と充実を図っていく。

平成31年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
4目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8042）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
人文事業費	22,052	23,769	△1,717			＜雑入＞ 21	22,031	
トータルコスト	53,010千円（前年度 53,960千円）〔正職員：3.9人、非常勤職員：5.0人〕							
主な業務内容	考古・歴史・民俗に関する資料の収集、展示、保存、調査研究							
工程表の政策目標（指標）	博物館機能の充実							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

人文部門（考古・歴史・民俗）の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、藩政資料の整備、修復・情報発信を行う。

あわせて、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	予算額	事業内容
資料収集研究費	4,793	<ul style="list-style-type: none"> 資料（考古・歴史・民俗）の収集、修復及び企画展の調査研究 鳥取県に関わる貴重な歴史資料等の購入 （臨）明治維新の一級史料「安達清風文書」整理・研究事業 当館に新たに寄託された、明治維新を語る上で第一級の文書史料群を3年計画で整理・研究し、活用する。 （3年計画（H31～33）の1年目） （新）縄文土器整理事業 未整理状態の縄文土器片を、非常勤職員を雇用して3年計画で整理し、可能な限り接合・復元し目録を作成する。 （3年計画（H31～33）の1年目）
常設展示費	1,440	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示室（歴史・民俗）の運営、維持管理、展示更新等 鳥取県の歴史・民俗を象徴する資料の複製品の製作 常設展示室の一部展示替及び普及事業等で県内の歴史・民俗事象に関する最新の成果・知見を紹介するための調査
藩政資料活用事業費	15,819	<ul style="list-style-type: none"> 池田家文書の補修、複本製作 （第2次16年計画（H17～32）の15年目） 鳥取藩政資料の活用・デジタル発信 （3年計画（H29～31）の3年目）
合計	22,052	

3 これまでの取組状況、改善点

資料の収集・保存や調査研究を推進して展示の充実を図っており、そうした対応を一層強化して魅力ある展示や資料出版等を実施することにより、成果を県民に紹介・還元していく。

平成31年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
4目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8042）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
美術事業費	16,638	16,896	△258				16,638	
トータルコスト	41,246千円（前年度 39,937千円）〔正職員：3.1人、非常勤職員：1.4人〕							
主な業務内容	美術に関する資料の収集、展示、保存、調査研究							
工程表の政策目標 (指標)	博物館機能の充実							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

美術部門（絵画・彫刻・工芸・写真等）の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。

2 主な事業内容

(単位：千円)

区 分	予算額	事業内容
資料収集研究費	9,345	・美術事業や展覧会に関する調査研究 ・郷土の美術作家に関する調査研究 ・保存、展示のための資料修復 ・画廊、作家遺族、作家等からの情報収集及び資料収集 ・美術品収集に係る収集評価委員会の開催
常設展示費	7,293	・近世及び近代美術資料の展示公開
合 計	16,638	

3 これまでの取組状況、改善点

- ・近年の来館者のニーズを踏まえつつ、新たな視点を加えた展示等を企画・実施しており、平成30年度の夏休み企画展示「動／静」では、展示の充実のため特別に作品を出品いただいた日本画家が外部の専門家となり、自らの作品と一緒に展示する当館所蔵コレクションを選んでいただくという新しい試みを実施した。
- ・引き続き、資料収集・調査研究等を推進し、県民に新たな知見や発見を提供するためにより効果的な展示等を実施する。

平成31年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
4目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8042）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
博物館普及事業費	〔債務負担行為〕 2,478 13,004		〔債務負担行為〕 2,478 672			〈諸収入〉 6	〔債務負担行為〕 2,478 12,998	
トータルコスト	37,612千円（前年度 36,962千円）〔正職員：3.1人、非常勤職員：1.0人〕							
主な業務内容	生涯学習支援、学校教育支援、情報発信							
工程表の政策目標（指標）	生涯学習の推進、博物館機能の充実							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

県民の生涯学習や学校教育を支援するために、各種の講座や体験学習会、移動博物館などを実施するとともに、博物館の活動、研究成果、利用方法などについて広く情報を発信する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	予算額	事業内容
生涯学習支援	5,314	・資料作品などを活用した「講座」、「観察会等」の開催 ・「移動博物館」、「移動美術館」の開催
学校教育支援	719	・学芸員の派遣や資料の貸出し ・児童・生徒・教員向け講座等の開催 ・教職員向け博物館利用促進講座等（教員のための博物館の日）の開催 ・学校訪問による利用ニーズの把握・講座改善への反映
情報発信	6,971	・非常勤職員（1名）の配置 ・広報の拡充（ホームページの更新と掲載情報の充実、SNS（個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なつながりを支援するインターネットを利用したサービス）の活用等）を推進 ・「鳥取県立博物館ニュース」の発行 ・「鳥取県立博物館研究報告」の発行 ・「鳥取県立博物館総合案内」の発行 ・ミュージアムデータベースシステムの保守
合計	13,004	

- ・「学校の先生向け講座」等に加え、平成26年度より「教員のための博物館の日」を開催している。
- ・その他、自然・人文・美術の各分野において、各学芸員の専門性や県民の要望を踏まえつつ、低年齢層から高齢者までを対象とした、より効果的な教育普及講座を編成・実施している。
- ・普及活動への参加者増に向けた広報を強化するため、広報対象を特化するなど広報戦略を検討し、ホームページだけでなく、特にSNS・チラシ・ポスターに重点を置いた広報に力を入れている。

平成31年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
4目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8042）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
美術館・博物館等ネットワーク強化推進事業	1,202	1,557	△355				1,202	
トータルコスト	5,965千円（前年度 6,324千円）【正職員：0.6人】							
主な業務内容	T.M.N.への補助業務、T.M.N.事務局としての連携計画具現化の検討及び博物館資料アドバイザーと加盟館との仲介等							
工程表の政策目標（指標）	博物館機能の充実							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

鳥取県ミュージアム・ネットワーク（以下「T.M.N.」という。*）が実施する、県内の美術館・博物館等における具体的な協力連携の取組、各館の歴史民俗資料の保存活用機能を向上させる取組を支援することにより、県内の博物館等の連携基盤を確立してネットワークの強化を図る。

（*）県内の博物館、美術館、歴史民俗資料館、考古資料館等の相互連携を密にし、博物館等の運営や事業の発展と向上を図ることを目的として平成15年に設立。県立博物館内に事務局を置き、鳥取市歴史博物館、倉吉博物館、米子市美術館、渡辺美術館等県内の公私の51施設が加盟。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	予算額	事業内容
T.M.N.への補助金交付	1,202	T.M.N.が加盟館を対象にして実施する次の事業に補助する。 (1) 美術館等協力連携推進支援事業 平成29年度に策定した「T.M.N.美術館等協力連携計画」に掲げた方針を具現化する取組。 ①加盟館学芸員による専門部会（会議）の開催 ②加盟館学芸員の資質向上を目的とした研修会の開催 (2) 博物館資料アドバイザー派遣事業 平成29年度に博物館資料アドバイザーに委嘱した外部の歴史・民俗研究者や専門家を、3歴史民俗資料館に派遣し、資料の保管・展示改善の指導等を実施。 ○アドバイザーの謝金及び旅費等 T.M.N.がアドバイザーに支払う謝金等の1/2支援

3 これまでの取組状況、改善点

T.M.N.は、加盟館職員の研修や加盟館相互利用者への入館料減免等を実施し、各館相互のネットワーク機能を高めてきたが、近年の地域の過疎化、高齢化等に伴う古文書等の散逸・毀損等を防ぎ、地域の美術・歴史等の拠点としての役割をさらに高めるため、県立公文書館や図書館等の取組と連携・協力しながら、T.M.N.が実施しようとする各館の資料保存・活用及びネットワークの機能を高めようとする取組の支援を平成29年度から始めており、取組の充実や実効性を高めるため、引き続き支援する必要がある。

平成31年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
4目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8042）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
鳥取県立美術館整備推進事業	39,977	4,935	35,042	4,533			35,444	
トータルコスト	63,791千円（前年度 20,825千円）〔正職員：3.0人〕							
主な業務内容	PFI事業者選定事業、美術ラーニングセンター検討、「県民立美術館」啓発事業							
工程表の政策目標（指標）	美術館整備に係る事業者の選定等							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

鳥取県立美術館の整備運営にPFI（BTO方式）手法を導入するため、要求水準書、落札者決定基準等の作成、PFI事業者選定審査会の開催等、PFI事業者選定・契約等の準備を着実に進める。
また、「未来を『つくる』美術館」をコンセプトに掲げた県立美術館の開館に向けて、美術館活動の効果を先行して波及させるとともに、県民と連携した美術館づくりを行っていく。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	予算額	事業内容
(1) PFI事業者選定事業	22,030	<ul style="list-style-type: none"> ○アドバイザリー業務委託(19,447千円) 県が行うPFI事業者選定に関し、法務、金融、建築技術等の専門的な知見・能力に基づく一連の支援業務を専門コンサルタントに委託する。 ※H30.6月補正債務負担行為設定済 ○PFI事業者選定審査会(2,583千円) PFI事業者を総合評価一般競争入札により選定するにあたり、落札者決定基準の策定、事業者及び事業提案書の審査を行う有識者による審査会の設置・運営等を行う。（※県内外の有識者等9名、H30：2回、H31：4回程度）
(2) 建設場所調査業務委託（新規）	11,336	<ul style="list-style-type: none"> 入札公告において事業者に提示する基礎資料とするため、美術館建設予定地（現倉吉市宮ラグビー場）の地質調査（9,224千円）、高低測量（2,112千円）を行う。 ※社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）活用予定（国2/5）
(3) 県民がつくる美術館事業	6,611	<ul style="list-style-type: none"> ○美術ラーニングセンター（仮称）機能の充実に向けた検討事業（3,365千円） ・小学生の博物館への招待、デジタル鑑賞コンテンツの活用、黒板ジャック等の美術大学と連携した取組、夏休み子ども向け企画展の開催等により美術に触れる機会を創出する。 ・小学校の新規採用職員研修（県教育センター主催）での専門講座の開催等 ○「私たちの県民立美術館」普及啓発事業（3,246千円） ・「アートの種まきプロジェクト」として、ワークショップや館外での美術品の展示・解説等を行うとともに、それら実施結果等の紹介を通じて関心を高めるフリーペーパーを作成する。 ・芸術文化関係者とディスカッションを行う「ミュージアム・サロン」の開催 ・県立博物館の美術コレクションの展示・解説等を行う「コレクション宅配便」の開催 ・地域団体等が実施するワークショップ等の開催経費の補助
合計	39,977	

3 これまでの取組状況、改善点

平成30年7月に鳥取県立美術館の整備基本計画を策定するとともに、「県有施設・資産有効活用戦略会議」におけるPFI・BTO方式を導入するとの検討結果を踏まえ、PFI事業者選定作業に着手した。

（参考）今後のスケジュール（想定）

- 2019年3月 実施方針の公表
- 2019年後半 特定事業の選定、債務負担（議会議決）、入札公告
- 2020年前半 事業者決定、本契約・設置管理条例の制定（議会議決）
- 2020年～2021年 PFI民間事業者による基本設計・実施設計
- 2021年～2024年 PFI民間事業者による建設工事（乾燥期間を含む。）
- 2024年度 開館

※鳥取県立博物館改修整備基本構想（中間まとめ）を平成30年6月に策定済（相当規模の展覧会が可能な展示室の存置等）

平成31年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
4目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8042）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
【終了】鳥取藩絵師粉本類修復事業（4年計画）	0	1,796	△1,796					
トータルコスト	0千円（前年度 3,385千円）【正職員：0.0人】							
主な業務内容	—							
工程表の政策目標（指標）	—							
事業内容の説明 （終了理由） 平成30年度で事業が終了したため。								
【終了】第11次郷土視覚定点資料収集事業	0	7,141	△7,141					
トータルコスト	0千円（前年度 7,936千円）【正職員：0.0人】							
主な業務内容	—							
工程表の政策目標（指標）	—							
事業内容の説明 （終了理由） 平成30年度で事業が終了したため。								